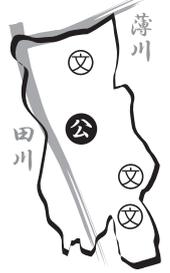


館報

庄内



庄内地区	
令和5年1月1日現在人口	
世帯数	7,197戸
男	7,323人
女	7,364人
合計	14,687人

発行 庄内地区公民館
(ゆめひろば庄内)
電話 24-1811
FAX 24-1812

庄内地区のモデル事業について

松本市では、「地域づくりセンター強化」を図るため、令和3年度より庄内地区・島内・芳川・四賀の4地区をモデル地区として位置づけました。今年度、寿・岡田・里山辺・奈川を加えた計8地区でモデル事業を実施しています。

- ①地区の重点課題への取組強化に向けたセンター長補佐の増員
 - ②地域自治支援交付金の試行(従前の交付金等予算の一括化による弾力的な交付金活用、事業提案方式による地域づくりの新たな担い手の発掘及び育成)
 - ③センターとの連携強化に向けた地区担当保健師の駐在化(令和3年度開始の4地区のみ)
- 今回、地域自治体支援交付金について、庄内地区の提案事業をご紹介します。

「集い場ふらっと」における地域の困りごとを支える事業

NPO法人ワーカーズコープ

「集い場ふらっと」は地域の住民の居場所として、4年前に並柳団地の住民の方によって作られました。令和3年の4月からNPO法人ワーカーズコープが管理運営を引き継いでいます。コミュニティカフェとして平日の10時〜17時開放しており、その時間はどなたでも利用していただけます。コーヒーやお茶、おやきなどの提供もしています。

住民同士の交流や外出のきっかけ作りとして、フリースペースや絵画教室、麻雀や将棋などを楽しむ会(脳トレ)、介護の悩みなどを話す茶話会(いきぬきカフェ)、大切な人を亡くした人達が抱えている様々な思いを語り合う場グリーンカフェ(涙カフェ)などを定期的に開催しています。また子ども食堂(なみカフェ)も昨年の4月からふらっとカフェ



「集い場ふらっと」は、並柳商店街の一角にあります。

で開かれるようになりました。昨年11月には別室としてレンタルスペースをオープンしました。会議やワークショップ、展示会などに使っていたり、住民の方のやりたいことを実施する場所にできたらと思っています。

集い場ふらっとは、子どもからお年寄りまでが自由に立ち寄って、おしゃべりができる場所です。その中から日常生活の課題が見えてくることもあり、そこにできるだけ寄り添うことができたかと考えています。そのためには一緒に活動していただく仲間が不可欠です。ボランティアをやってみたいと思う方、自分でも何か始めたいと思っている方、一緒にふらっとを作っていきたい方(集い場ふらっと 高砂)

アロマの香りと手の温もりによる「人・地域をいたわる」事業

香りの会

香りの会は、アロマセラピストまたはアロマハンドセラピストの資格をもつ8名で活動しています。香りによる癒し、人との触れ合いを通じて、自分自身や身近な人をいたわる方法の一つとして、ハンドトリートメントを広めたいというのが、会の趣旨です。

庄内地区公民館で月に2回「アロマの香りと温もりの講座」を開いています。今回、編集委員が受講しました。アロマセラピーの基本を簡単に学んだ後、好きな香りのマッサージオイルを参加者自身が作ります。そのオイルを使って手から肘までをなでたりさすったりする方法を学びました。自分の手を自分で優しくいたわると、良い香りと共に気持ちが悪く落ちていく感じがなくなります。講座を受けた後、ぜひ家族にもやってあげたいと思えました。成長してからなかなか触れ合わなくなってしまう子どもたちに、照れくさ

くて手を握ったりできない両親に、この癒しを届けたと思います。

香りの会は、デイサービス事業所を訪問する活動も行っています。「ストレス社会の中、アロマによるリラクゼーション効果を広めたいです。人の手に触れることで、セラピスト自身も癒される人が多いです。庄内地区の方々にもっと広げてもらいたい、活動を広げていきたいです。」と、代表の青木さんは話しています。次の講座は、2月17日、26日に行われます。

(館報編集委員 久保)



この他に、庄内盛々会・庄内ほたると水辺の会・かえでの会・庄内福祉のチカラが事業を行っています。



モデル事業の関連ページは上の二次元コードから

地区の町会を知ろう!

並柳

R5.1.1現在
世帯数:1671
人口:3695人
〔男:1855人〕
〔女:1840人〕

並柳の紹介

並柳は、松本市の市街地南東に位置する地域です。西に田川、南に牛伏川や里山が連なり、北に和泉川、東に桜の名所である弘法山古墳がある自然豊かな地域です。

現在は、近年の急速な住宅の増加により畑はわずかに残るのみになっていますが、昔は一面に畑が広がる全国でも有数のセロリ産地でした。

並柳には、小学校や運動場があり、町会球技大会などの町民の健康作りや懇親の場となっています。様々な飲食店（レストラン・パン屋・居酒屋・焼肉・丼物屋・ラーメン・うどんなど）があり、大型のスーパーもあるのが日常生活の買い物にも便利です。

公共交通機関は、アルピコ交通バスが松本駅前ターミナル駅と並柳団地線で結んでくれています。医療施設

についても様々な料のクリニックが集まっています。このように「ここの並柳は、子どもからお年寄りまで幅広い世代の住民が安心感を持って暮らせる地域です。」

(並柳町会副会長 塩野崎正敏)

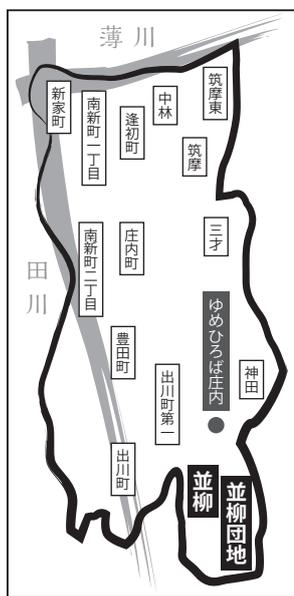
並柳公民館について

世帯数が1200戸を超える大所帯となった並柳町の公民館は住民共有の【会議室兼多目的ホール】として活用されています。

主な利用例は、農家組合など地域の共同体の会議室利用や住民が講師となって自主的に開催している太鼓や笛・大正琴の演奏練習活動・体操やヨガのサークル活動など、ほぼ毎日利用されています。

町会主催の行事は、敬老祝賀会・文化祭などがありますが、ここ3年はコロナ禍の三密回避のためにすべって見送りとなっていました。

コロナ終息後にも行事の開催には課題が残ります。住



並柳団地

R5.1.1現在
世帯数:331
人口:565人
〔男:250人〕
〔女:315人〕

現在の、並柳団地町会は約320世帯です。他の地区と同じように「高齢化」「一人暮らし世帯」が増えています。昨年「路線バス」の見直しを検討され、来年度から便数も増え、買い物や病院への交通手段が便利

民の増加や高齢化で今年の敬老会の対象者は400人となり、小学校児童数は180人を数えます。

住民数と公民館の収容規模が行事の内容と釣り合わなくなってきたことは、今後の大きな課題です。今はまだ解決策が見えていませんが、公民館利用者が気持ちよく使える環境を維持していきたいと思えます。

(並柳町会公民館長 赤羽伸夫)

になる予定で、皆さん感謝しています。

高齢者の事故防止や「運転免許証の返納」に対応できる方法として、公共機関の見直しは必要不可欠の問題です。

今後予想される災害に向けて、年に一度の「防災訓練」を毎年実施しています。防災対策の三要素「自助・共助・公助」に加え、「近所」のつながりも大切になります。日々の生活の中で「近所」お隣とのつながりを大切にしていきたいと考えております。

また、突然の「心停止」の対策として、「AED（自動体外式除細動器）」の設置も現在調整しており、救命や社会復帰の点ですぐれた効果を発揮するとされています。AEDの効率的で円滑な利用を目的とし、大勢の方がその使用法を学ぶ機会を増やしていきたいと思えます。

今後地域住民の皆さんが、住んでいて良かったと思える町会にしていきたいと思っています。

(並柳団地町会副会長 江森 一)

並柳団地の40年前

私は、昭和58年に団地へ入居しました。当時は550世帯の家族が生活し、子どもも多く、とてもにぎやかな活気あふれる町会でした。市内が一望でき、夜景もきれいに見える所が自慢です。

ブラジル・中国など、外国籍の方々も大勢住んでいました。みんな仲が良く、仕事に勤しむ日々を送る元気な町会でした。

庄内から団地までの道路わきは畑・田んぼと、自然あふれる地区でした。秋になるとびっくりする程とんぼが飛びかき、今の状況との差を感じています。

車で少し走ると、お店、飲食店が立ち並び、生活していくには、とても立地条件が良い町に住まわせていただいていた、ありがたく思っています。

お世話になった町会です。少しでも社会に貢献し元気に頑張っていきます。

(並柳団地町会公民館長 三浦 妙子)

